

に、ちいさきひげこを小松につけたる、又すくすくしきたてぶみとりそへて、あふなくはしり參る。[○]申わか君のおまへにて、卯づち参らせ給、おほきおまへの御らんせざらんほどに、御らんせさせ給へとなんこまぐとこといみもへしあへず物なげかしげなるさまのかたくなしげなるも、うち返しくあやしと御らんじて、今はの給へかしたがぞとの給へば、むかしの山里に有ける人のむすめの、さるやうありて、此ごろかしこに侍るとなんき、侍しと聞え給へば、おしなべてつかうまつるとは、見えぬ文かきをと心得給ふに、かのわづらはしきこと、あるにおぼしあはせつ卯づちおかしう、つれぐなりける人の志わざと見えたり、またぶりに山たちばなつくりて、づらぬきそへたる枝に。[○]歌

白馬節會

白馬節會ハ訓讀シテアヲウマノセチエト云フ、正月七日ニ行フ儀ナルヲ以テ、又七日節會トモ云ヘリ、元日節會及ビ新嘗會等ト同ジク中儀ト爲ス、是日白馬ヲ觀レバ、青陽ノ氣ヲ調へ、年中ノ邪氣ヲ除クト稱ス、因テ天皇豐樂殿ニ出御シテ、左右馬寮ノ官人、牽ク所ノ青馬ヲ御覽アリ、竟テ宴ヲ群臣ニ賜フ、此日又兵部省ヨリ御弓矢ヲ獻ズルアリ、之ヲ御弓奏ト云フ、又文武官敍位ノ儀アリ、又國柄ノ奏アリ、内教坊ノ女樂アリ、其敍位ノ儀ハ、政治部ニ別ニ其篇アレバ、多ク省略ニ從ヘリ。

〔下學集上時節〕^{〔アラタセチ〕}白馬節會正月七日、於禁中行之、或青馬節會共云、馬、陽獸也、青、春

〔運動色葉集阿〕青馬節會正月七日

〔書言字考節用集二時候〕白馬節會正月七日

名稱